

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

平成 21年 9月 14日

【評価実施概要】

事業所番号	0175400340
法人名	医療法人 交雄会
事業所名	グループホームしらかば
所在地	〒099-0701 紋別郡遠軽町生田原350番地 生田原診療所2階 (電話) 0158-49-4385

評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成21年8月27日	評価確定日	平成21年9月14日

【情報提供票より】(平成21年8月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 12月 1日						
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9人				
職員数	9人	常勤	8人	非常勤	1人	常勤換算	8.16

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り
	2階建ての ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円			
その他の経費(月額)	水光熱費20,000 円			
敷金	有() 円 無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有() 円 有りの場合償却の有無 有 / 無			
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(8月1日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	0名	要介護2	4名		
要介護3	3名	要介護4	0名		
要介護5	2名	要支援2	名		
年齢	平均 86歳	最低	82歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	生田原診療所 生田原歯科診療所 遠軽学田病院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は生田原地区中心部の閑静な住宅街に位置し、同母体組織の診療所の2階部分を改修した1ユニットで1階の診療所は協力医療機関でもあり医療面での連携が密に図られ、利用者・家族・職員にとっても安心感がある。玄関周りには花や野菜を栽培し、草取りや収穫は利用者の楽しみとなっている。開設時に利用者の発した言葉を基にした理念「みんなできると楽しいし、みんなできると安心だ、できないことは助け合い、できることも助け合い、優しい時を過ごしましょう」を職員は共有し、利用者に寄り添い利用者のできることを大切にケアを実践している。みんなが集うリビングは明るく季節の花などが飾られ、暖かい雰囲気を醸し出している。又、窓からは四季折々の美しい風景を眺めることができ、自然に恵まれた環境になっている。地域に認知症への理解と関係づくりを更に深める取り組みの中利用者が安心して暮らすことができるよう管理者を軸に、職員は明るく生き生きと支援している姿が伺える。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善点、地域とのつきあい、運営推進会議の活発な意見交換、家族の思いや意見を積極的に取り入れる工夫については、管理者と職員で話し合いながら改善に取り組んでいる。災害時の訓練については、町内会自体が高齢者が多く参加できない状況にある。同母体組織グループである老人保健施設と協力体制を確保しているが、訓練の実施までには至っていない。
重点項目②	職員全員が評価を実施する意義・目的を理解しており、一人ひとりが項目のねらいを掘り下げながら積極的に自己評価に取り組み、ケア向上に繋げている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	町内会長・生田原支所民生課長・保健師・地域包括支援センター職員・在宅介護支援センター所長・診療所係長・同法人老人保健施設事務局長等を構成員とし、6月に10回目の運営推進会議を開催している。活動状況、利用者の様子、職員の研修等について報告し、メンバーからの情報提供などで活発な意見交換を行いサービスの質の向上に活かしている。認知症への理解が深まり地域住民の見守りや声かけ、協力の申し入れ寄せられている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	毎月のホーム便りや利用者の楽しかったこと、生活の様子を撮った写真を掲載した「個人便り」の発行は離れて暮らしている家族にも喜んでもらえ、安心に繋がっている。意見箱を設置しているが、実際の利用はなく、家族の来訪時を大切な機会と捉え、意見・要望等を聞くよう努めている。又、運営推進会議に利用者家族も参加し、より一層家族の意見等を引き出せるよう取り組んでいる。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入しているが、地域自体が商業地域で高齢者も多く行事等がない状況にある。買い物に出たり、散歩をしたり、挨拶を交わすなどの当たり前の生活を地域住民が支えてくれている。管理者は認知症サポーター養成講座の講師を努め、地域に貢献している。同法人グループ老人保健施設の盆踊りは利用者の楽しみとなっている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に職員で話し合い、利用者の言葉『皆でいると楽しいし・皆でいると安心だ・できないことは助け合い・できることも助け合い・やさしい時を過ごしましょう』を大切に理念に掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	この度、全職員が自己評価に取り組む中で理念を再考したが、慣れ親しんだ現在の理念を継続し、理念に沿ったケアサービスに取り組む事を確認している。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、散歩時に挨拶を交わし交流している。高齢者が多い地域で地域行事は行われていないが、顔見知りの住民も多く、地域の中で利用者を見守り支え合っている様子が伺える。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、職員は自己評価の意義・目的を十分理解しており、職員全員が積極的且つ前向きに自己評価に取り組み、その後二度話し合いの機会を持ち、そこで得た気づきをサービス向上に繋げている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3～4ヵ月に一度開催している。家族は基より幅広く地域住民が参加し状況報告や、活発な意見交換がされている、参加の依頼や内容報告を、ホーム便りに掲載している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政機関が近くにあり、常日頃から行き来し、相談や、情報交換を行っている。利用者の認定調査も行政の保健師が行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月始めにホーム便り「しらかばだより」と写真を載せた「個人便り」を請求書、金銭報告書と共に送付し日常の様子を知らせている。家族の訪問時には介護担当者や職員が状況報告に努めている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者、職員は家族の訪問時を大切な機会と捉え、何でも言って貰える関係作りを心掛けている。家族アンケートを実施し、家族の不安や、意見、要望を把握し、職員で共有し運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動・離職は少ないが、あった場合は、他職員が利用者のダメージに配慮し支援している。新規職員採用時は、研修期間を儲け、利用者と同顔馴染みの関係構築に努めている。管理者の「何かあったら何時でも行くからね」の言葉は、職員の不安な気持ちに安心感を与え、利用者のダメージ防止に役立っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年、研修計画を作成し、管理者は情報提供に努め、職員の参加を支援している。研修会参加後は報告の機会を儲け、情報の共有を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会網走ブロックや遠紋地区の勉強会に参加し、交流を図っている。生田原地区の地域ケア会議にも毎月参加し、サービスの質の向上に活かしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に、見学や体験宿泊をして貰い、納得した上での利用開始となっている。職員は、利用者情報を共有し、早期に馴染みの関係を築く様に取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	管理者、職員は利用者と過ごす事を喜びとし、共に生活する中で知恵や知識を学び合い支え合う関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用している。職員は常に、利用者の言葉や様子等の中から希望や思いの把握に努めている。困難な場合も一人ひとりの心の声に耳を傾け、意向の把握に取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者がアセスメントをし、家族の意向を取り入れ、ケアマネージャーと話し合いプランを作成し、管理者、家族の確認を得、本人本位の介護計画を作成している。介護計画は日誌に記載し職員に周知され誰もが家族に説明出来る様に成っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヵ月に一度定期的に見直しを行っている。状況変化には、その都度、一時的か長期的か見極めながら見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院、買い物、理・美容等の支援を利用者、家族の状況に応じ、柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望するかかりつけ医と連携を取りながら支援している。建物一階部分が診療所になっており、緊急時や健康管理面での安心感に繋がっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の指針を作成し、入居時に家族に説明し同意書を交わしている。状況に応じ、その都度、本人、家族の意向を確認し職員共有の基、対応している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者、職員は利用者の尊厳や羞恥心に配慮したケアを心掛けている。浴室に常にに着替えを用意している等の工夫も見られる。家族と個人情報保護の同意書を交わし、記録の記入、保管にも配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを尊重し、利用者の希望に沿った支援に取り組んでいる。隣の寺院にお参りに行ったり、近所の自宅に帰ったりと、思い思いに過ごしている様子が伺える。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が利用者の好みや季節感を考慮した献立を作成し、力量に合わせ、職員と共に調理や配膳、後片付けを行っている。家族が持ち寄った山菜や野菜を調理し、季節の味を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の体調や希望を考慮しながら、毎日入浴支援を行っている。入浴拒否の利用者には、タイミングを見ながら声を掛ける等の工夫を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の経験や持てる力を発揮できる場を提供し(調理・後片付け・おしぼりたたみ・草取り等)支援している。季節に合わせた花見や紅葉狩りは、利用者の楽しみとなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの裏が遊歩道になっており、毎日散歩に出掛けている。利用者の、興味や希望に沿い、買い物、図書館、お寺参り等きめ細かな外出支援に取り組んでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけないケアを実践している。一人で外出する利用者には、その日の見守り担当職員が、見守りながら同行し安全確保に努めている。近隣住民も見守りを申し出てくれており地域と共に利用者を支えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急時、災害時のマニュアルを作成し年に一度、避難訓練、消火訓練を実施している。非常ベルが戸外に聞こえるようになっており地域住民に協力を依頼している。同法人グループの老人保健施設と自動通報装置を設置し協力体制を取っている。	○	災害の対策は、あらゆる事態を想定し、繰り返し訓練を行う事が望まれる。夜間想定訓練、冬期対策、通報・連絡訓練等の訓練の検討、実施を期待する。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態に合わせた食事を提供している。献立は看護師、同法人グループ老人保健施設の栄養士が確認し、カロリー、バランス、病状に配慮している。食事・水分摂取量は記録され職員で共有し支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きな窓のリビングからは裏山が眺められ、季節の移り変わりが感じられる。食卓テーブルには季節毎のテーブルクロスや花、利用者の作品等を飾り、家庭的な安らぎのある雰囲気を提供している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い居室には、利用者の馴染みの家具や好みの物が持ち込まれ、利用者に合わせて居室で食事やお茶を楽しむ等、第二の我が家として居心地良く過ごしている様子が伺える。		

※  は、重点項目。